様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００３３３

研究課題名（和文）民間情報教育局(CIE)で調査対象となった文芸雑誌・総合雑誌の検閲の国際的研究

研究課題名（英文）An International Study on the Censorship on Literary and General Journals Investigated by the Civil Information and Education Section (CIE)

研究代表者
十重田　裕一（Toeda, Hirokazu）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：４０２３７０５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、民間情報教育局(CIE)の調査対象となった文芸雑誌・総合雑誌における、GHQ/SCAP（連合国軍最高司令官総司令部）の検閲に関連する資料、具体的にはGHQ/SCAPによる指示のある校正刷・出版物・検閲文書等の資料についての調査を行い、その成果を学術論文や著書にまとめ広く発表したことで、占領期の日本近代文学とメディア検閲との関連の一端を解明し、新たな照明を当てた。また同時に、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校での共同研究、コロンビア大学、スタンフォード大学、ブリティッシュ・コロンビア大学での学術交流等を通じて、本研究課題についての国際的な研究基盤を形成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究におけるGHQ/SCAP検閲関連の資料の分析によって、占領期日本の出版物がいかなる言論統制を受け、作家や編集者がどのような葛藤のもと作品を発表していたか、その関連の一端を解明した。それにより、これまで作家の創作意図によるものと見られていた、この時期の出版物に見られる作品本文の異同が、実はGHQ/SCAP検閲という政治的な意図が深く関与しているものであることが明らかとなり、占領期のアメリカ軍によるメディア検閲とこの時期の日本文学との関連に新たな照明を当てることができた。

研究成果の概要（英文）：Through this project, I was able to survey materials-including censored galley proofs, publications, and censorship documents-relevant to GHQ/SCAP (General Headquarters / Supreme Commander for the Allied Powers) censorship in literary and general interests journals inspected by the CIE (Civil Information and Education Section), and widely disseminate the results of my research through scholarly articles and books. In doing so, I was able to shed new light on some of the connections between modern Japanese literature and media censorship in Occupation-period Japan. I was also able to further develop international bases for research related to this topic through collaborative projects with scholars at UCLA as well as academic exchanges with scholars at Columbia University, Stanford University, and the University of British Columbia.

研究分野：人文学

キーワード：日本文学　検閲　内務省　GHQ　メディア　出版　文芸雑誌　総合雑誌

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本近代文学における検閲の研究は、国内外において、近年もっとも注目の集まる研究テーマの一つである。そこで想定されるメディア検閲は、明治時代から昭和前期まで帝国日本で実施されていた内務省の検閲と、第二次世界大戦後日本の占領期にアメリカ軍によって行われたGHQ/SCAP の検閲である。

これらに関わるいくつかの先行研究の成果があるが、重要な研究課題はまだ多数存在する。その一つが、本研究課題で対象とする、GHQ/SCAP による検閲下の 1948 年に民間情報教育局（CIE）によって実施された *Survey of Selected Japanese Newspapers and Magazines* である。その考察により、当時の日本文学作品とメディア検閲との関わりが一層明らかとなり、当該研究の進展に大きく貢献することになるだろう。

２．研究の目的

本研究の目的は、民間情報教育局(CIE)の調査対象となった文芸雑誌・総合雑誌における、GHQ/SCAP の検閲に関連する資料、特に、*Survey of Selected Japanese Newspapers and Magazines*（1948）に掲載されている文芸雑誌の 3 誌『近代文学』『新日本文学』『人間』に関連する資料の収集・分析を通じて、占領期の日本近代文学に見られる GHQ/SCAP 検閲の特色を解明することを目的とする。この調査は、占領期日本のマスメディアの状況を把握するために実施され、GHQ/SCAP の部局の一つ、民間情報教育局（CIE）によって行われた。文芸雑誌では『近代文学』『人間』『新日本文学』が、総合雑誌では『文藝春秋』『中央公論』『改造』『世界』が調査の対象となっていた。これら文学作品の有力誌における検閲の事例は、GHQ/SCAP と文芸雑誌・総合雑誌との鬩ぎ合いの分析を可能とし、占領期における日本近代文学と検閲との関連に新たな照明を当てることができる。そして、その研究成果を国際的に共有するべく、日本国内外で積極的に発信する。

３．研究の方法

GHQ/SCAP の検閲に関連する資料の収集・分析を行うにあたり、米国メリーランド大学図書館のゴードン W.プランゲ文庫での調査をはじめ、米国での研究調査、研究成果の発表、学術交流等をさらに活発に行う予定であった。プランゲ文庫における、文芸雑誌『近代文学』『人間』『新日本文学』の資料収集等、一部の調査は計画どおり実施できたものの、新型コロナウイルス感染拡大のために出張が制限される期間が続き、いくつかの計画は中止せざるを得なかった。そのため、方向性を転換し、これまで継続的に行ってきた資料調査の整理・分析を集中的に行うことで、研究の水準を高めるとともに、それらの成果を学術論文や著書の形にまとめ積極的に発信することで、研究成果を広く内外に公開していった。

４．研究成果

本研究は、GHQ/SCAP 検閲に関連する資料の収集および分析を通じて、占領期の日本近代文学に見られるメディア検閲の特色を解明することを目指して進められた。途中、新型コロナウイルス感染拡大のために国内外の出張が困難となり、予定していた調査を中止せざるを得なくなったが、その期間はこれまで継続的に行ってきた資料調査の整理・分析を集中的に進め、またその成果を学術論文や著書にまとめることで、広く研究成果を発表することができた。以下に、主たる研究成果の概要を経年的に示す。

2018 年度は、特に *Survey of Selected Japanese Newspapers and Magazines*（1948）に掲載

されている3誌『近代文学』『新日本文学』『人間』に関連する資料の収集を行った。国内外の研究機関での調査を実施し、研究成果の中間報告として、論文「民間情報教育局の調査対象になった文芸雑誌と占領期検閲をめぐる序説」（坪井秀人編『戦後日本文化再考』三人社、pp118-124、2019年）を執筆した。さらに、横光利一とGHQ/SCAP検閲に関する論考を含む著書『横光利一と近代メディア　震災から占領まで』（岩波書店、pp.1-416、2021年）、坂口安吾とGHQ検閲との関連をまとめた文章を含む共編著『坂口安吾大事典』（安藤宏・大原祐治・十重田裕一編著、勉誠出版、pp.1-828、2022年）の出版の準備を進めた。予定していた研究は順調に進み、当初の研究目的を達成できた。

2019年度は、プランゲ文庫で得たGHQ/SCAP関連資料、具体的には、GHQ/SCAPによる指示のある校正刷・出版物・検閲文書等の資料を中心にしながら、必要に応じて、直筆原稿や執筆者・編集者の証言についても調査を行った。関連する研究実績として、編著書『「言論統制」の近代を問いなおす――検閲が文学と出版にもたらしたもの』（金ヨンロン・尾崎名津子・十重田裕一、花鳥社、pp.1-221、2019年）を刊行した。2019年度末には新型コロナウイルス感染拡大のために研究が大幅に制限されたが、研究の進捗状況が良好であったため、予定していた研究実績をあげることができた。

2020 年度は、新型コロナ感染拡大で移動が厳しく制限され、国内外の出張がまったくできなかったことで、当初の計画を変更し、関連する研究成果をまとめることに注力した。2020年2月28・29 日に米国コロンビア大学で開催された国際シンポジウム・ワークショップにおける研究成果を編著書としてまとめ、論文を発表した。その編著書はハルオ・シラネ、鈴木登美、小峯和明、十重田裕一 編『〈作者〉とは何か 継承・占有・共同性』（岩波書店、pp.1-512、2021年）で、寄稿した論文は「「文学の神様」の創造と忘却――マスメディアと帝国日本の文学者」（pp.399-417）である。国際的に活躍する研究者たちによる500頁におよぶ論文集を編集・刊行し、自身も寄稿することにより、本研究成果を広く内外に公開することができた。

2021 年度も、新型コロナウイルス感染拡大のために国内外の出張が大幅に制限されることとなったため、これまでの調査に基づく研究成果をまとめることに研究の方向を大きく転換することとした。集中的に草稿・原稿の整理を行うことで、十重田裕一『横光利一と近代メディア　震災から占領まで』（岩波書店、2021年、pp.1-416）を出版することができた。関東大震災前後からアメリカ軍による占領期までの約30年間を作家として活動した横光利一と、折しも未曽有の変革期であり拡大期であった近代メディアとの関わりを論じた本学術書は、プランゲ文庫収蔵資料の調査・分析結果や、2019年10月から2020年3月まで客員教授として滞在した、カリフォルニア大学ロサンゼルス校における研究成果など、米国の研究機関における調査・研究に基づく研究成果が組み込まれたものである。これにより、GHQ/SCAP と文芸雑誌・総合雑誌との間にどのような鬩ぎ合いが繰り広げられ、それがどのような結果をもたらしたのか、占領期の日本近代文学とメディア検閲との関連の一端を解明し新たな照明を当てることができた。

また、本書は「第30回やまなし文学賞　研究・評論部門」を受賞し、内外から高い評価を受けた。それにより、本研究の成果をインパクトをもって発表することのできた研究成果の一つと言えよう。

今後の展望としては、社会情勢を見ながら、計画を中止せざるを得なかった国内外の調査を改めて実施し、新たな資料を調査・分析することによって、メディア検閲と日本近代文学との関連をより明らかにしていくとともに、さまざまな研究者たちとの共同研究を進めることで、個々の特色を活かした良質な研究を推進し、その成果を広く国内外に発信していくことを目標としたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 十重田裕一	４．巻 －
２．論文標題 「文学の神様」の創造と忘却――マスメディアと帝国日本の文学者	５．発行年 2021年
３．雑誌名 〈作者〉とは何か 継承・占有・共同性	６．最初と最後の頁 399-417
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 十重田裕一	４．巻 －
２．論文標題 民間情報教育局の調査対象になった文芸雑誌と占領期検閲をめぐる序説	５．発行年 2019年
３．雑誌名 戦後日本文化再考	６．最初と最後の頁 118-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計4件

１．著者名 十重田 裕一	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 416
３．書名 横光利一と近代メディア　震災から占領まで	

１．著者名 ハルオ・シラネ（編著）、鈴木登美（編著）、小峯和明（編著）、十重田裕一（編著）	４．発行年 2021年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 512（399-417）
３．書名 〈作者〉とは何か 継承・占有・共同性	

１．著者名 金ヨンロン（編著）、尾崎名津子（編著）、十重田裕一（編）	４．発行年 2019年
２．出版社 花鳥社	５．総ページ数 221
３．書名 「言論統制」の近代を問いなおす　検閲が文学と出版にもたらしたもの	

１．著者名 坪井秀人（編著）、十重田裕一ほか（分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 三人社	５．総ページ数 603（118-124）
３．書名 戦後日本文化再考	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関